

第2回徳島市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会 議事録

と き 令和5年10月25日（水）
午後2時00分から
ところ ホテル千秋閣7階鳳の間

次 第

1 開 会

2 議 事

(1) 徳島市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画（素案）について

- ア 第1章 計画策定に当たって
- 第2章 高齢者を取り巻く状況
- 第3章 第8期計画の取組評価と課題整理
- 第4章 計画の基本的な考え方
- 第5章 施策の展開
- イ 第6章 介護保険事業のサービス料の見込みと保険料
- 第7章 計画の推進に向けて

(2) その他

3 閉 会

資料

- 資料1 徳島市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画（素案）
- 資料2 介護給付等対象サービス量の見込み及びパブリックコメントについて
- 資料3 第1回策定委員会意見書への回答

【議事内容】

事務局	・開会あいさつ
議事（1）徳島市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画（素案）について	
ア 第1章 計画策定に当たって	
第2章 高齢者を取り巻く状況	
第3章 第8期計画の取組評価と課題整理	
第4章 計画の基本的な考え方	

第5章 施策の展開

事務局	【資料1 p.1～p.83 説明】
A 委員	68 ページの高齢者虐待防止の推進というところについて、普及啓発するという言葉だけで終わっていますが、一体どのような普及啓発をされるのか、教えてください。
事務局	高齢者虐待防止の推進の普及啓発については、現時点で行っているものとして、定期的開催されている各事業所の運営推進会議に参加した際等に、虐待の防止についてお伝えさせていただいております。また、運営指導の際に、何か気がつくようなことがあれば、事業所に対して虐待の防止につながるような取組について助言をさせていただいております。
A 委員	虐待については、事業所におけるヒアリング等を実施していただきたいと思います。それと度々事案があった事業所について見守っていくというような形も必要だと思いますが、そういうところについてご説明をいただけたらと思います。
事務局	虐待の疑われる案件について通報や連絡を受けた場合は、その内容等から緊急度、重要性等を判断した上で、事業所を訪問し聞き取りを行う場合や事業所の方に来てもらって状況を聞く場合があります。 そのような連絡が複数ある事業所については、先程申し上げたように、事業所で行われる運営推進会議の際であるとか、運営指導に行った際に特に気をつけるようにはしております。
A 委員	そういったような活動をされているというのはわかりましたけれども、事業所にとっては行政が来ることがすごくプレッシャーになるという部分もありますので、赴いて顔を見せるだけでもけっこうですので、事業所の方に来てもらうのではなくて、事業所に行っていただくようにしてもらいたいと思います。 人数に限られるとは思いますが、近年は虐待行為やハラスメント行為は、病院関係、介護関係、障がい者関係で多数聞いています。できるだけ力を入れていただいて、見守っていただきたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。
B 委員	20 ページの要介護者等に対するリハビリテーション提供体制のところですが、訪問看護ステーションに理学療法士、作業療法士がいて、要支援者等に安定した支援を提供し、訪問看護のリハビリの一環として効果はあげているというような状況もございます。指標としてここに入れ

事務局	<p>るべきかどうかはわかりませんが、意見をさせていただきます。</p> <p>それともう1点、27ページの終末期の療養と在宅生活の継続について、最近人生の最終段階という言葉をよく使っています。終末期という言葉を使うと、まだまだ先と高齢者は思ってしまうますが、人生の最終段階、たとえば後期高齢者になった時代とか、そういう視点でこれから先の生活をどう考えるかみたいな形で、もう少し大きく捉えられるような表現をこれから用いてもいいのかなと思いました。</p> <p>ありがとうございます。ここの表現については、再度検討をさせていただきたいと思います。</p>
C委員	<p>同じ部分なのですが、「訪問診療や介護サービスを受けながら、住み慣れた自宅で家族と過ごしたい」というのが20.1%となっていて、これは経年で見ると、増えているのか減っているのかを教えてくださいたいです。</p> <p>それと、上の居所を変更した理由で、「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」についても経年で見ると増えているのか減っているのか、大事なことです、分かったら教えてくださいたいです。</p>
事務局	<p>3年前との比較になりますが、終末期の療養場所の希望について「住み慣れた自宅で家族と暮らしたい」という割合は、今回20.1%で、前は19.8%であり微増という状況です。</p>
C委員	<p>できるだけ家で過ごせるようにということを目指しているのですが、少しでも増えているのは、やっけていて良かったなと思います。</p>
事務局	<p>居所が変わる原因で一番多かったのが医療的ケア・医療の処置の高まりということですが、こちらはどういう感じなのでしょうか。</p>
事務局	<p>居所を変更した理由については、アンケート調査で、ここに載せている項目しか選択肢がなかったために、その詳細な理由等については、こちらは把握できていない状況です。</p>
C委員	<p>もう1つ聞きたいのは、48ページのフレイルサポーター養成事業についてです。これはどんなことをされているのでしょうか。</p>
事務局	<p>東京大学の高齢社会総合研究機構が開発しました一定の研修を受けた市民の方が、市民に対してフレイルのチェックをすることができるものとなっております。</p> <p>現在、徳島市におきましては、サポーターが約30名養成されておりまして、昨年度末から普及啓発活動やフレイルチェックの活動を精力的に行っているところであります。</p>
C委員	<p>あともう1点、61ページのヤングケアラーについてですが、ヤングケ</p>

事務局	<p>アラーの方というのは、人数がどれぐらいいるのかというのと、どのように把握されているのかを知りたいです。</p> <p>ヤングケアラーにつきましては、2年ほど前に県で統計を取ってまして、数十名だったという記憶はあります。</p> <p>ここにヤングケアラーという言葉を出したのは、今回国の方で審議会が進んでおりますけれども、今年に入って、審議会の途中で突然ヤングケアラーを介護計画の中に入れるという話が出てきました。やはり第一義的に今介護や障がいの現場のところで、第一発見としてしやすいということです。本来ヤングと言われる、いわゆる高校生ぐらいまでのケアラーについては、支援は教育委員会や子育て関係の部門が本来していくべきなのかなとも思うのですが、なかなかまだそういう具体的な取り組みには至っていません。ただ第一発見としてつながれていく、いわゆる地域連携をしていくという意味で、国の方から言われていると思っていますので、介護保険の中で、そういう発見をした時に、他部署との連携を進めていきますという内容を今回の計画に入れていく必要があると判断した次第です。</p>
C委員	<p>在宅医療をやっているのですが、在宅療養と老老介護という方がいて、お孫さんとかが見ている。結果的にヤングケアラーという可能性もあるので、高齢福祉としても、いろいろな連携や情報収集をしてもらいたいと思います。</p>
D委員	<p>48 ページのフレイルサポーター養成事業についてですが、地域包括支援センターではフレイルサポーターの養成を昨年度より進めているところですが、このサポーターの方にフレイルチェックをしていただいて、それに引っかけた方が介護事業につながって、その方のその後の健康寿命がどう変化していったのか、また要介護申請、認定率が何も受けていない方と比べてどう違うのか、そういった評価や効果、継続の仕方というものを行政が中心となって考えていただけたらありがたいと思います。</p>
E委員	<p>先程のヤングケアラーの話のところで、私も同じところを見ておりまして、今回記載を充実しなければいけない項目の中には、地域包括ケアシステムの深化や推進のところの項目がすごく多くて、その中の1つでヤングケアラーを含む家族介護者の支援も出ているのでということだと思うのですが、この記載を充実するという項目の中に、重層的支援体制整備事業というのがあると思います。</p>

事務局	<p>元々の地域包括ケアシステムが、地域のまるごと相談窓口みたいな形で、高齢者のみでなく、子どもや障がい者、生活困窮者とか、そういうところを発端に子どもの支援も充実していく中で、守っていつているのかなというふうに考えています。</p> <p>ヤングケアラーを理解するためには、先程も他部署との連携ということが出てきたと思うのですが、この計画の中に連携機関として児童系の部署を記載されたり、そういうところはないのかなと思いました。</p> <p>3ページにあるように、地域福祉計画を上位計画として、横の連携として、子ども・子育て支援事業計画と連携しています。重層的支援体制整備事業については、必要性は感じているものの、現在までのところ実施・計画にはいたっておりません。</p>
E委員	<p>市町村レベルで、いろんな分野との連携が重要になっているところなので、進めていただけたらと思います。</p> <p>もう1点だけ、51ページ、生きがいのある地域づくりと「社会参加」の促進というところの成果指標ですけれども、コロナ禍でガクンと下がった部分が一番多いと思います。第8期の計画には、現状値として令和元年度の数字が掲載されているのですが、コロナ前の数値だと思います。目標値の令和8年度が令和元年度よりも数値が低いということで、数値の考え方を教えていただけたらと思います。</p>
事務局	<p>目標値設定については、去年まで落ちたのですが、それからおよそ1割増に上げるという考えで、最終的にはまたコロナ禍前の状況に戻れば良いと考えています。</p>
E委員	<p>1回落ちたものをまた戻すのは大変だと思いますが、先程のフレイルとかも関連してくると思いますので、そのあたりもご検討いただけたらと思います。</p>
F委員	<p>47ページの⑤歯・口腔の健康推進に関する事業ですけれども、歯周病健診も始まりましたので、そういうものも入れていただいたら、健康推進につながっていくのではと思います。</p>
会長	<p>私の方から質問なのですが、14ページに日常生活圏域別介護サービス事業所がございしますが、圏域別に対応するような対策ですとか、そういうものを考えているのでしょうか。</p>
事務局	<p>この後に説明もありますが、圏域別に多少の差は出ていると思うのですが、徳島市として整備している地域密着型サービスについて、今期計画期間では施設・居住系サービスの公募等による施設整備は予定してお</p>

	りません。在宅サービスの申請等については、事業所の需要状況等も勘案しながら指定を進めていければと考えております。
議事（１）徳島市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画（素案）について イ 第６章 介護保険事業のサービス料の見込みと保険料 第７章 計画の推進に向けて	
事務局 G 委員	【資料１ p. 84 ～p. 105 説明】 また 48 ページに返るのですが、フレイルサポーター養成事業について、これ以上増やすための予算はあるのでしょうか。
事務局	養成ができる体制として予算を計上したいと考えております。圏域が広いので、各圏域に派遣できるような体制を整備していきたいと考えております。
H 委員	69 ページに認知症カフェとありますが、この前も徳島県のユニバーサルカフェということで、さまざまな年代の方とか、地域の居場所づくりということで、県知事が認可したというニュースが流れていました。 条件としては、ある程度の開催日数というのが基本的にありますが、コロナ禍において、開催日数がほとんどないというのが実際でして、5 類にもなって半年経ちますから、できる限り週 1 回とか、そういう開催日数にしなければならないと思っています。 認知症カフェも週に 1 回とか、ある程度市独自で認可制ではないのですが、基準的なものが必要なのかなというふうに思っていますので、市の皆さんからご意見をお聞きしたいと思います。
事務局	どこが母体になっているか。ボランティアか、病院等がついてやっているかというところで、その規模にもよりますので、特にそこで基準を設けるというのではなく、認知症の方が主体となってやるような取り組みを考えております。
F 委員	ほとんどの認知症カフェの主体がボランティア中心です。地域的にも、どこにあるかも分からないので、もし機会があったら、ホームページ上でここにありますよとか、地図にマッピングをするとか、そういうようなこともしていただくと、利用者は助かると思っています。
副会長	徳島市社会福祉協議会でも地域福祉活動計画を作っているのですが、その中で認知症カフェを紹介していただいて、地域の方では関心が高まっているようなところもあります。活動計画の中でも、どこがやっているというのを、できれば紹介していきたいと考えております。地域の方のご協力をお願いすることもあるかもわかりませんので、行政について

<p>I 委員</p> <p>事務局</p>	<p>も、またよろしく願いいたします。</p> <p>28、29 ページの介護人材の過不足の状況について、すごく大きな問題と思いながら、日常業務をしておりますが、介護人材の確保の状況について、徳島市で何か取り組まれていることがあれば教えていただきたいと思いました。</p> <p>介護人材の確保についての取組といたしましては、介護分野への介護未経験者の参入を促進するため、徳島県社会福祉協議会と協力しながら、広報とくしまにおいて、介護人材募集の記事を掲載するでありますとか、人材確保に努めております。また、徳島市とハローワークの連携によりまして、過去に合同の就職面接会等も行っております。</p> <p>それと介護助手等の募集についても年数回、広報とくしまで掲載しております。</p>
<p>I 委員</p>	<p>介護支援専門員について、もっと若い方が介護支援専門員になっていただけるようにがんばらないといけないと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>G 委員</p>	<p>施設の介護人材不足ということで、徳島市が教育委員会と協力をしていただいて、中学生とか、そんな方達のインターンシップみたいな、夏休みとか春休みとか、施設での就業経験をしていただいて将来につなげていくというような取組を計画していただいたらと思います。</p>
<p>B 委員</p>	<p>訪問看護ステーションを開設する事業者が増えておりまして、特に徳島市内では営利法人が開業するところが増えております。訪問看護師の数も年々増えていっておりますが、需要と供給と合わせますと、やはりまだ不足のところもございますし、看護職員は訪問看護だけでなく、さまざまな病院や施設等でも働いておりまして、看護協会においてはナースセンターが中心になって、中学生、高校生に向けてインターンシップをする等の取組も実施しております。</p>
<p>H 委員</p> <p>事務局</p>	<p>31 ページの介護予防把握事業の目標値は 1,350 件に対して実績が 137 件と非常にかげ離れています、目標値の推測が間違っていたのでしょうか。</p> <p>介護予防把握事業ですが、これは在宅を訪ねて、その方の介護予防につなげていくというものなので、コロナ禍でお家に来るのはやめてくださいということがありましたので、この目標値からはかなり開いているという状況でございます。</p>

